



「熱性けいれん」って知っていますか？

生後3ヶ月から6歳までに38度以上の発熱を伴って生じる発作性疾患（けいれんなど）をいいます
それでは、どれくらいの人たちがけいれんをおこすのでしょうか？

日本の頻度は多く、「約10人に1人」が小さいときにけいれんをおこすんです！

多いですね

きっとこのブログを読まれている方のお子さんでも、けいれんをおこしたことがある人はいると思います
男の子の方が多いのですが、繰り返すのは女の子の方が多とも言われています（2回目を繰り返すのは30%、3回以上繰り返すのは9%）

また、お父さん、お母さんどちらかが小さいときに熱性けいれんをおこしていた場合は20~30%、両親共におこしていた場合は40%以上の確率でおこすと言われています

ほとんどのけいれんは10分以内ですが、中には30分以上継続するけいれん重積を認めることもあります
みなさんもこれからお子さんがけいれんを起こすことがあり得ます

それでは、けいれんをおこした時にはどうしたら良いのでしょうか？

1) あわてない！ 何もしない！

これが一番大事なんです・・・でも、初めてけいれんを見たお父さん、お母さんであわてないでいられる方はいません。病院へ運ばれてきた患者さんの御両親はたいていはパニックになっています

昔は「ひきつけると舌をかんで死んでしまうから」と言って、口の中にタオルなどをつめていました
でも、これは昔の迷信で、けいれんをおこして舌をかんで死ぬ子はいません。それよりも、吐いてしまうことがあるので、口の中にタオルを入れると詰まって窒息してしまいます。時々けいれんをおこしている子の口に手を入れて、手が血だらけになってこられる御両親がいますが、決して入れてはいけません！

2) 吐きそうになったら体を横に向ける

吐いたときに上を向いていると窒息します。吐いたものが流れる様に体と顔を横に向けて下さい。

3) 見る！時間をはかる！

私達がけいれんの患者さんを診るときに一番知りたいのは、けいれんが何分続いたか！なんです。

そして、どんなけいれんだったのか「固まっていた」「ブルブルと全身を震わせていた」などの情報、そして、「目は左を向いていた」「目は上にあった」などの目の位置の情報も大切です。時計を見ていないと、実際には1分のけいれんでもお父さん、お母さんには10分に思えたりするんです。（けいれんが落ち着くまでは本当に長く感じるんです）

落ち着いて時計を見てください

そして、けいれんが落ち着いたら病院、または救急隊に連絡をします

もちろん、けいれんが5~10分経っても止まらない時は、けいれんの途中で必ずすぐに電話をしてください

以上がけいれんをおこした時の最初の対処方法です



次に、日本では解熱剤を使って熱を下げても、その後に熱が上がる時にけいれんを起こすという意見もあります

熱性けいれんをおこすと今後解熱剤は使えないのでしょうか？

私の答えは「No、使えます」なんです。解熱剤を使用することで熱性けいれんを予防することができるか？という研究が欧米でされてきました。

結果としては「解熱剤を使用することで熱性けいれんを予防することができないが、熱性けいれんが誘発されることも無い！」というものでした

もちろん、解熱剤は病気（風邪）を治す薬ではないので、頻繁に使う必要はありません。

ただ、高熱でぐったりとして水分も取れない状態が続くのならば、解熱剤を使って一度熱を少し下げてあげても良いのでは？と私は考えております。

私の所属していた北海道大学小児科では解熱剤は普通に使用しており、熱性けいれんを持っている患者さんはむしろ積極的に解熱剤を使用する人が多かったです。

けいれん予防の座薬（ダイアップ座薬）の使用方法でも解熱剤の座薬は30分間を空ければ使用可能となっているんです。（一緒に使用すると吸収が悪くなるためです）

現段階では熱性痙攣を持っているお子さんに対する解熱剤に関しては一定の見解はありません

もちろん、解熱剤は必ず必要な物では無いので、心配な時は使わないで経過をみて良いと思います